

香取支部ポンプ操法大会



6月21日、東庄町役場を会場に平成27年度公益財団法人千葉県消防協会主催の香取支部ポンプ操法大会が開催され、多古町消防団からはポンプ車の部として第4分遣所(飯笹地区)、小型ポンプの部として第2分団第4班(船越地区)が出場しました。

ポンプ操法大会は、消防ポンプを使って消火活動を行うための操作方法訓練で、団結力の向上や迅速な消火活動を養うことが目的です。この大会に向けて、どちらの班も早くから練習を重ね当日に臨み、見事に第4分遣所が優良賞に輝きました。また、同班の4番員を務めた菅澤伸一郎さんが最優秀4番員として表彰されました。



第4分遣所
左から 菅澤多加男、伊藤輝、松ヶ枝大佑、鈴木義人、菅澤伸一郎



第2分団第4班
左から 勝又祥光、山邊稔、小川秀明、山邊豊昭、椎名隆行

多古中央病院から

古くて新しい蚊の怖さ

文/国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法

暑くなってくる出てくる蚊は刺されると痒くなるため悩みの種ですが、それ以上にやっかいなことは、蚊は多くの病気をもちます。怖い病気として発熱を伴い、重症化すると死に至ることもあるマラリアや日本脳炎など、日本でも古い時代から蚊によって広がる疾患が北は北海道から南は沖縄まで全国で見られ、特に沖縄県では終戦後もしばらくの間マラリア対策は主要な課題であり続けました。



蚊は流水には産卵できず、魚の臭いも嫌うため、工事現場やドラム缶、古タイヤなど主に人工物にできた水たまりに産卵し、ボウフラという幼虫が生まれてから約2週間で成虫になります。現代的な水田が蚊の発生源になることはありませんが、昔から雨水にのみ頼っていた田んぼ、言い換えると川から水と川魚が入っている水田が多い地域において、降水量が少ない年にはボウフラと流行病が発生することはよく知られていました。また、集落ごとに一斉に側溝の掃除をすることは、障害物で側溝の水の流速が落ちてボウフラが発生するのを防ぐ効果も期待されていることです。しかし、蚊の発生を抑えるために水田や住居の環境を継続して整備していくのは難しく、一度稲作が始まったものの不十分な水田の管理で蚊が大量発生して病気の流行

を抑えきれず、稲作を止めた地域も世界的には多くあります。日本の都市は海岸沿いの平野部に集中していますが、地域によっては暑さをしのぎやすく蚊が少ない高地に大都市が築かれることがあり、特に熱帯では高地を巡る土地争いが起こることがあります。最近の日本では、蚊に対する悩みが再発生しているとも言えます。昔から恐れられていたマラリアの再出現に加え、血を吸いに来る蚊が病原体を広めるデング熱が話題になっていました。デング熱を広める蚊は、千円札でおなじみの野口英世が研究した黄熱病も広めますが、黄熱病にはワクチンが作られています。デング熱はテレビ等でセンセーショナルに報道されていますが、症状は発熱と発疹を主体とし、一目で見分けが付くような特徴はなく、特に強力な感染力というわけでもありません。もし発症しても、適切な医療を受ければ重症化は防ぐことができます。

世界では蚊の絶滅のために、巨額の資金が投じられてきましたが、結局、発症した後に治療を行った方が効率が良く、ボウフラを食べて駆除する川魚を無理に放しても環境を破壊するだけだということが分かっています。今後も様々な努力が続けられるでしょうが、個人で今できることは、虫除けスプレーや蚊帳の利用ぐらいでしょうか。

ふっくら

たまごさんが行く!!

千葉県民の日香取地域行事
6月13日



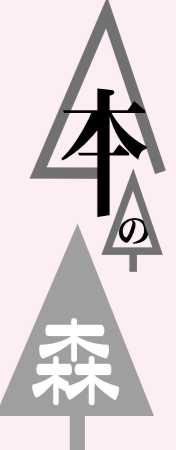
よく晴れて汗ばむほどの天気となった梅雨の晴れ間、千葉県民の日を記念して香取地域で催された「利根川歴史クルーズ」。神崎大橋のたもとから船に乗って、国指定重要文化財である「横利根閘門」や、香取神宮の「津宮の鳥居」などを見学しながら「道の駅水の郷さわら」までクルージングします。その後は、バスでオープンしたばかりの「道の駅発酵の里こうざき」へ。今回のたまごさんのお仕事は、午前と午後の2回、香取地域のキャラクターたちと一緒に参加したみなさんの「お見送り」と「お出迎え」です。さすがのたまごさんも、暑さにちよっとくたびれたようでした。



熱中症を予防して快適な夏を

◆予防のポイント◆

- ① 温度調節…室温が28℃を超えないようにエアコンや扇風機を上手に使いましょう
- ② 水分・塩分補給…のどが渇かなくてもこまめに水分補給を。たくさん汗をかいた時には、水分と同時に適量の塩分も取りましょう
- ③ 服装…外出の際は薄く通気性の良い服装で、日傘や帽子で日よけ対策もしましょう
- ④ 健康管理…十分な睡眠時間・栄養バランスの良い食事・体力づくりをしましょう。無理をせず適度に休憩をしましょう



私の一冊

『フランス人は10着しか服を持たない』
―パリで学んだ『暮らしの質』を高める秘訣―



本植人:浅野郁子さん (五反田)

アメリカ・カリフォルニア州に住んでいた著者がフランス・パリへ半年間交換留学した時の話で、お菓子を間食することや、よれよれの服を気にしないことなどが当たり前だった今までとは正反対の生活に衝撃を受け、間食をしなくて食事そのものを楽しむこと、衝動買いはせず自分に合う質の良いものを買い大切に使うこと、生活をなるべくシンプルにして、毎日の暮らしに喜びを見つけて工夫をすること、生活の質を高くそして人生を楽しむなど、人や物の外見だけでなく、ライフスタイルや生き方、心の持ち方などの秘訣が書かれています。この本の各章は、見出しごとに1から3ページ程の短い文章に分かれ、最後に内容

が箇条書きでまとめられています。少しずつ読むことができるうえ、内容を簡単に読み返すことができるとても読みやすい本です。
以前は不要なものを捨てる『断捨離』が話題となりましたが、この本は話の切り口が違ってきます。話の中で、服や身の回りをすっきりさせたいと思っている方やシンプルで上品、洗練された生活をしたと思う方におすすめします。

40年目



『フランス人は10着しか服を持たない―パリで学んだ『暮らしの質』を高める秘訣―』
編: ジェニファー・L・スコット
訳: 神崎朗子 発行: 大和書房

上質な物を少しだけ持ち、大切に使う。日常のなかにさまざまな喜びを見つける。フランスの貴族の家にホームステイした著者が、興味深い話やユーモアをたっぷり織り交ぜながら、パリで学んだ上質な生き方を紹介。

今回紹介した本は、プラザ図書室に置いてあります。
リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■コミュニティプラザ図書室
☎79-3406
開館時間: 午前8時30分〜午後5時
【休館日】毎週月曜日・祝日